

### 総会後の会食 親睦会

総会後に真上公民館の近くの「富美や」で親睦会食会と親睦会が開催されました。

会食の料理は、役員の方がお店の方と相談し美味しい料理が用意され、監査役の乾杯の音頭で始まりました。



総会後の親睦会食会風景

会員の牧戸さんが会員全員に土産を持って参加して下さいました。会食後に準備して頂いたマジック・伝言ゲーム・あ



マジックショウ

親睦会もアツという間に時間が過ぎてお別れとなりました。会員の皆様と楽しい時間を持って、本当に有意義な親睦会でした。

### 会員だより

#### 一心寺は心の故郷に非ず

妹の上村サト子に誘われて、NHK大河ドラマ「真田幸村」に因んで、天王寺周辺を歩く会に参加してきました。コースの中に、一心寺にも立ち寄るといふことだったので



一心寺山門

一心寺は私達の実家の代々のお骨が納めてあって、よく母や兄からこの名前を聞きました。

昭和19年4月6日に亡くなった父(享年42歳)の葬式の様子は当時8歳だった私の記憶は確かではなく、よく覚えていませんが、亡くなって四十九日は線香の火を絶やしてはいけない、

留守にしていけない」との申し伝えで、よく一人で留守番をさせられました。ある日「今日は一心寺へお父さんのお骨を納めに



一心寺南門

行くから、学校を早引きして来なさい」と言われ先生にそう言って早引きしたこと、その日、何だか本堂のような畳の上で座っていたことしか覚えていません。

その後、昭和20年6月7日、天満の駅近くにあった実家が戦災にあったところ、一心寺のある天王寺一帯が焼けましたので、私達とはしばらく縁がありませんでした。

昭和42年末の頃でしょうか、兄が約二十歳のダイハツ札幌出張所の赴任を終え、千里ニュータウンに家を持ちました。そこで昭和42年7月7日に亡くなった母の納骨に兄の呼びかけで一心



一心寺納骨堂

寺に行きました。生後六か月の次女は主人にあずけ長女をつれていきました。長兄一家と姉も一緒に食事をしたのを覚えていますが、肝心の納骨や妹や姪達のことは忘れませんでした。

今回約50年ぶりに訪れた一心寺は近代的な寺院になり、山門は昭和の名建築リストに載るようになりました。どこの宗派も受け入れてもらえる心広いお寺さんで、全国から送られてくるお骨で10年ごとに骨仏像を建立することでも有名でしたが、最近では余りに多すぎて対応できず、断られていたと聞きました。戦前に納骨した祖父母や父のお骨はあの豪壮なお寺の敷地に埋葬されたのでしょうか。

この日、私達は一心寺の後、玉造まで環状線に乗り真田丸ゆかりの地を巡りました。その一つが三光神社です。その境内に真田幸村が造ったとされる大阪城への抜け道がある。参加者はよく見えない抜け穴を丹念に覗き込んでおられたが、私達姉妹にとつて、神社の現在の鳥居に隠れそうになっている約1mの半壊の石柱の方に関心がありました。裏面には「昭和二十年六月の戦災を蒙り、倒壊その片柱をここに留む」、表面



国家安泰平和祈願

には「国家安泰平和祈願」とある。私達が天満近くにあった実家が上空襲にあったのも同じ時期であったことが分かりました。関西一帯が戦火を浴び、国民が生死の境をさまよわされていたのに、なお戦争は二ヶ月続いたのです。

戦災の大被害を受けた人たちは心の故郷をすっかり刷りかえられてしまいました。自分の記憶も薄れ、親族で尋ねる人もすっかりいなくなりました。私には終活を迎える今の南千里が心の故郷と実感する昨今です。

記…山田昭子  
写真…上村サト子

#### よみがえる着物たち

3月14日茨木市福祉会館で、リメイク作品発表会を拝見しました。

舞台ではなく、作品がより近くで見られるように、フロアを自作の洋服を着た顔見知りのモデルさん達が慣れた足取りで登



場です。作品の前、後が見えるようにくると廻ったり、裏地が見えるように広げたり脱いだり、時には観客席から、やはりリメイクの作品を着たお知り合いを誘い入れ、会場一体の盛り上がりです。地味な大島の裏地に派手な色柄の縮緬が使われて「わー綺麗！」お

似合い！」と声があがりました。作品ごとの素材や創意工夫のナレーションと共に、若かりし頃の御自分達や母親や叔母様達から譲られたであろう着物が見事に今風の洋服に生まれ代わり、私達にも大切な思い出が伝わってきました。

VG観輪の成本さん、明見さんも夫々2度、登場され、作品も笑顔もお見事でした。誘い込まれた柴田さんもしつとりした作品で素晴らしかったです。次回も楽しみにしています。

記・写真…中川加奈子